



「じんましん」を知ろう

庄原赤十字病院皮膚科副部長 あしざわ 芦澤 しんいち 慎一

「じんましん」とは

「じんましん」は、皮膚の一部が突然赤くくっきりと盛り上がり、しばらくすると跡形もなく消えてしまう病気で、多くはかゆみを伴います。

症状は、数十分から数時間以内に消えますが、半日から一日続く場合もあります。皮膚の盛り上がりの大きさは、1～2mm程度のものから手足全体に広がるものまでさまざま、一つ一つの皮膚の盛り上がり方が融合して、体の表面のほとんどを覆ってしまうこともあります。

何週間も次々と新しいじんましんが現れる場合や、出たり消えたりが続く場合もあり、最初の症状が出現してから1カ月以内で治まるものを「急性じんましん」、それ以上続くものを「慢性じんましん」と呼びます。

「じんましん」の原因

じんましんは大きく2つのタイプに分けられます。

①原因がはっきりしているタイプ

「刺激誘発型のじんましん」と呼ばれ、じんましんの約3割を占めます。

アレルギー（食べ物、薬剤など）や汗、寒さ、水、圧迫、温熱、振動、こすれなど、さまざまな刺激が原因となり発症します。

②原因がわからないタイプ

「特発性のじんましん」と呼ばれ、じんましんの約7割を占めます。

風邪をひいていたり、疲労がたまっていたり、ストレスがたまっていたりするなど、さまざまな原因が重なって発症します。

このようにじんましんは原因が分からないことが多い病気です。

「じんましん」の症状が現れたら

症状が現れた場合は、患部を刺激しないように注意し、病院を受診してください。

その際、症状が出た時の状況を医師に伝えましょう。

原因がはっきりしているじんましんは、原因となる食べ物や刺激などを避けることが治療となります。

一方、原因がわからないじんましんの場合は、じんましんのもととなるヒスタミンという物質の働きを抑える「抗ヒスタミン薬」という飲み薬を服用することで治療を行います。

なお、症状が何日も残り、特に症状が消えた後も茶色い色がついたり、表面がガサガサ、ポロポロしたりする場合は、じんましんとは別の病気が考えられます。すぐに病院を受診しましょう。

